



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和6年6月6日

No. 7



5年生 算数授業研究「かけ算の世界を広げよう」

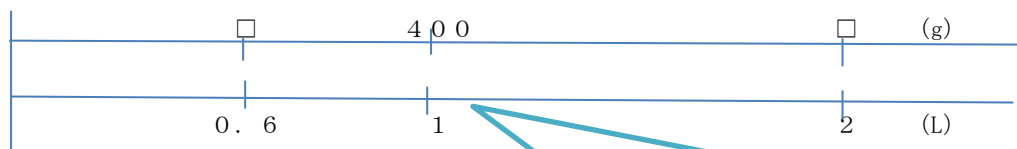
今年度、愛宕小では「分かりやすく伝え合い、学びを深める子どもの育成」を授業研究の主題に掲げ、算数科を窓口授業改善に取り組んでいます。特に、全国学力・学習状況調査結果からも明らかになった弱み（立式の意味の理解、数量関係を捉える力、グラフや表を読み取る力、自分の考えを表現する力など）を改善するために、児童同士が「分からない」ことを共有しながら、自分の思いや考えを分かりやすく説明し、学びを深めていく授業を目指しています。

5月31日2限目、5年B組（担任：岩倉）で算数の研究授業を行いました。全教員が授業を参観し、放課後に事後検討会をもちました。そして、目指そうとしている子どもの姿に近づくことができたのか、授業展開は適切であったのか意見交流を行いました。最後に、市教委より来校いただいた指導主事より「今、求められる学力」を踏まえて助言をもらい、教員一人ひとりが日頃の自身の授業をふり返りました。



この時間は「1Lの重さが400gの土があります。この土の□Lの重さは、何gですか。」という問題で、□=2、1.3、0.6の場合を考えました。

$400 \times 2 = 800$ $400 \times 1.3 = 520$ $400 \times 0.6 = 240$ と答えはかけ算で簡単に求められるのですが、ここである子どもが「おかしい、何か違う、 (400×0.6) はかけ算をしているのに、答えが400より小さくなっている。」と発言。そして、「(かけ算をしたのに) どうして積はかけられる数より小さくなることがあるのだろうか？」というめあてを立て、皆で話し合いをしました。途中、下のような数直線を書いて考えました。



2Lの重さは400gより大きい（数直線上で400の右）が、0.6Lの重さは400gより小さい（数直線上で400の左）ということに気づくことができました。



この単元では、単に小数のかけ算ができるだけでなく、整数から小数へとかける数の範囲を広げてかけ算の意味を捉え直し、計算の仕方を考えることが目標です。そして、日常生活の中で、こういった考え方をいかし、活用できることが大事になってきます。

◆除草作業をしました(5月29日)

暑さとともに校庭の草の緑が濃くなり、雨が降るとあっという間に草丈が伸びてきます。毎年、梅雨に入る前のこの時期に、全校で草取りを行います。

この日も、短い時間でしたが、全校みんなでゴミ袋50袋ほどの草が集まりました。

高学年の整備委員の児童が抜いた草を回収してくれました。大変な作業でしたが、最後まで頑張ってくれました。



◆観劇「一休さん」を行いました(6月3日)

文化庁の舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)に応募したところ、見事にあたり、このような機会を得ることができ、劇団芸優座による演劇「一休さん」をみました。

早朝より、劇団の方に体育館の舞台セットを準備していただきました。体育館のステージが静かな山の中に佇むお寺の風景に代わり、そこで一休さんの「とんち」が繰り広げられます。途中、6年生児童も役者さんになって登場したり、ステージ下で合唱やリコーダー奏をしたり、子どもたちが演劇に参加するという趣向があり、全校みんなで楽しみました。特に、6年生にとってはよい思い出になったのではないのでしょうか。



合唱・リコーダー奏をして演劇を盛り上げる6年生

◆熱中症に気を付けよう

昨年度の夏の気温の高さは本当に心配な状況でしたが、今年の夏も全国的に気温が高いと予想されているようです。学校でも、保健室前に写真のような掲示をし、日々の熱中症指数が分かるようにしています。

子どもたち自らが、気象状況に関心を持ち、それに応じた行動を考えることができるようになってほしいと思います。

